

## 指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和4年度		
施設名	秋田県ゆとり生活創造センター（遊学舎）	設置年	平成 14 年
所在地	秋田市上北手荒巻字塚切 2 4 - 2		
指定管理者	特定非営利活動法人 あきたパートナーシップ		
県所管課	地域づくり推進 課	地域協働推進 チーム	

### 1 施設の概要

設置目的	自由時間を活用した活動及びボランティア活動をはじめとする自主的な社会貢献活動を行う団体に対し、活動に関する情報及び研修の機会を提供するとともに、団体等の交流その他の活動を支援し、もってゆとりのある県民生活の実現に寄与すること。					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における、当該施設の位置付け・目標					
	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として、当該施設に求められているもの					
施設の面積	敷地面積18,368.51㎡、延床面積3,521.60㎡					
主な設置施設	管理棟、工房棟、交流棟、会議棟、昭和館、屋外					
指定管理業務の内容	料金制	有（利用料金併用制 ・ 完全利用料金制） <b>無</b> （指定管理料制）				
	料金設定	別紙のとおり				
	サウンディング実施対象施設※	×	←○、×を記入			
	指定期間	令和3年4月1日	～	令和8年3月31日		
	営業期間・時間	平日・土曜9:30～21:30/日曜・祝日9:30～18:00/年末年始（12/29～1/3）休館				
自主事業の内容	1. 施設の使用許可業務 2. 施設設備の維持管理業務 3. ボランティア・NPO支援業務（あきた中央市民活動サポートセンター業務） ①相談・情報提供業務、②市民活動情報ネットの管理運用、 ③市民活動情報誌「かだれ」発行 4. 企画事業（NPO・ボランティア支援講座、利用者を増やすための講座等）					
	遊学舎まつり、遊学舎フリーマーケット、遊学舎県民ギャラリー展、市民活動カフェ、NPO・ボランティア基礎講座、NPO法人設立講座、NPOのためのZoom活用講座、動画編集講座、SNS活用講座、NPO向けインボイス制度セミナー、あきたNPO会議、お菓子作り講座、木工教室、登山塾、英会話講座、eスポーツなど					
直近3年の年間利用者数	R 2	69,682 人	R 3	71,004 人	R 4	80,437 人
直近3年の年間料金収入	R 2	4,543 千円	R 3	5,034 千円	R 4	5,571 千円
直近5年の収支決算（単位：千円）						
収入計		59,108	59,108	60,203	58,669	60,797
利用料収入						
指定管理料		59,108	59,108	60,203	58,669	58,669
その他収入						2,128
支出計		58,196	59,330	59,871	59,491	60,731
人件費		29,143	31,413	31,126	30,809	29,846
人件費以外		29,053	27,917	28,745	28,682	30,885
差 引		912	▲ 222	332	▲ 822	66

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の2～3年前にサウンディング（官民対話）を実施する。

## 2 観点ごとの評価

### (観点 I) 施設の設置目的(施設の目指す姿)の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

※協定書に記載した運営方針・施設の利用目標を記載  
(R 6年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要)

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和4年度の目標	利用者数 120,000人
----------	---------------

○指定管理者による実績報告

直近3年の実績	年度	R元年度	R2年度	R3年度
	目標	120,000	120,000	120,000
	実績	103,892	69,682	71,004
	達成率	86.6%	58.1%	59.2%
令和4年度の実績	実績	80,437	達成率	67.0%
	具体的な取組とその効果	遊学舎まつりやフリーマーケットなど、これまで開催できなかった集客力のあるイベントや企画事業等も積極的に実施してきた結果、前年度の実績を上回ったが、コロナ禍前の実績までは伸びていない。		
令和5年度の目標(設定根拠)	目標	利用者数 120,000人		
	設定根拠	集客力のあるイベントや企画事業等を実施するほか、職員一人一人が個性的な講座を企画するとともに、SNSによる情報発信を積極的に行い、夜間の利用者と新規の利用者を増やす取組によりコロナ禍前の利用者数を目標とする。		

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

### (観点 I) の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	C	令和4年度の目標は達成できなかったが、新型コロナウイルスの影響からは回復の兆しが見えてきている。今後は集客力のあるイベント等も増やしていくとともに、SNSによる情報発信を積極的に行い、働いている世代や若い世代などの新しい利用者を増やす取り組みを行う。
県(所管課)	C	昨年に引き続き、利用者数は目標を下回る結果となったが、これまで開催できなかった集客力のあるイベント等を積極的に開催するなど、利用者を増やすための工夫がみられる。引き続き、多くの県民を惹きつけられるような企画の実施と施設のPRに努めてほしい。	

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

また、施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

## （観点Ⅱ）施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組

### 【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度の状況 (直近3年)	R元年度	R2年度	R3年度
	95.6%	74.5%	81.0%
令和4年度の実績	実績	73.4%	
	具体的な取組とその効果	前年度末にコロナ対策として、会議室や研修室の抗菌加工や一部テーブルの更新、手洗いの自動水栓化などの改修を行った。また、利用者からの意見や要望に対する回答も公表するとともに可能な限りの改善に取組んでいる。	

## （観点Ⅱ）の評価

評価者	評価	コメント
指定管理者	B	利用者からの意見や要望には可能な限り答えられるよう職員全員で取り組んでいる。空調設備等の経年劣化による施設環境の課題については、予算措置が必要なため優先順位等も考慮しながら計画的に要望を続けていく。
県(所管課)	B	利用者の意見を吸い上げてきめ細かに対応しており、高い満足度を維持できている。施設維持管理については、予算と優先順位を考慮し、引き続き、指定管理者と連携しながら計画的に修繕を実施していくこととする。

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A：満足度80%以上　　B：A及びC以外　　C：満足度60%未満

## （観点Ⅲ）効率性の向上等に関する取組

### （1）経費の低減

#### 【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	経費の低減実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>経費全体では、前年比で約2%増加した。</li> <li>特に原油価格高騰等の影響により光熱費が前年比で約19%増加した。</li> <li>人件費は、前年比で約3%減少した。</li> </ul>
	具体的な取組とその効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>原油価格高騰等の影響により経費が増加したが、冷暖房の運転時間をこまめに調整するなどの節電の取組や補助金を活用することができたため、光熱費の超過分については概ね補助金で補うことができた。</li> <li>人員配置と働き方を工夫することにより、人件費を減少することができた。</li> </ul>

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

### （2）収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

#### 【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	収入の増加実績	
	具体的な取組とその効果	

**(観点Ⅲ) の評価**

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	光熱費が予算額を大きく超過したが、節電の取組と補助金の活用により概ね補うことができた。また、人員配置の工夫により人件費を約3%減少することができた。
	県 (所管課)	B	原油高騰等の影響により総額では前年比で増加したものの節電の取組や人員配置等の工夫もあり、人件費等において経費の低減が図られている。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A : (1) 経費の低減、(2) 収入の増加とも前年比で5%以上改善

B : A、C以外

C : (1) 経費の低減、(2) 収入の増加とも前年比で5%以上悪化

**(観点Ⅳ) 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組**

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和4年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人員配置 定休日無しの12時間の開館時間に対応するため、シフト制による人員配置を行っており、施設の管理運営に支障は生じていない。</li> <li>○職員のスキルアップ 市民活動やNPOの運営に関する研修会等に積極的に参加させるとともに専門性を養うことで利用者からの様々な相談に対応できるようにスキルアップに努めている。</li> <li>○利用者数を増やす取組 夜間の利用者数を増やすために職員一人一人が、自ら個性的な講座を企画してきた結果、働く世代など新しい利用者の獲得につながっている。</li> <li>○施設の維持管理 施設の設置から20年が経過し、設備等の経年劣化が顕著であるが、修繕計画を作成するとともに大規模修繕、改修等の要望を継続している。また、利用者が安全かつ快適に利用できる環境を維持するため、可能な限り小破修繕で対応している。</li> <li>○危機管理 毎年、所管課と緊急時の対応を含む危機管理マニュアルの更新をしている。</li> </ul>
--------------	--

**(観点Ⅳ) の評価**

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	指定管理業務については基本協定書に従い適正に実施している。また、施設設備の維持管理については、施設の設置から20年が経過し、経年劣化や耐用年数の経過による不具合が生じているが、予算の関係もあることから、所管課と協議しながら計画的に改修する方向で要望を継続している。
	県 (所管課)	B	施設の管理運営について、問題なく業務が行われている。施設維持管理については、予算と優先順位を考慮し、引き続き、指定管理者と連携しながら計画的に修繕を実施していくこととする。

【評価基準】 A : 順調（改善点なし）、B : 概ね順調（重大な問題点なし）、C : 改善が必要（重大な問題点あり）

県（所管課）の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

## 【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

### ○県の施策の達成状況

(施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等)

余暇活動の場として多くの県民やNPO法人等に利用されており、社会活動や地域活動への参加に寄与している。

### ○施設運営の課題

20年経過による施設の老朽化が課題となっている。

### ○今後の方向性

(県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等)

引き続き指定管理者と情報共有を図りながら、地域課題の解決に向けた取組への支援や若い世代の社会活動・地域活動への参加促進に向けた取組を推進していく。